

支所整備と高台移転は

復興計画策定の中で検討



やまざき まさお 議員
山崎 正男

問 震災のことを考えると高台移転を考えるべきだが、計画はあるか。

答 いるが、来年3月には綺麗な庁舎に生まれ変わる。

問 佐賀支所は最近特に劣化していると感じるが、今後整備をするのか。

答 青木地域住民課長

佐賀庁舎は昭和47年度に鉄筋コンクリート3階建て、延べ床面積1256・6平方メートルで建築された旧佐賀町役場の本庁舎である。

本年度は外壁の防水対策と庁舎全体の塗替え工事を行うことにしている。屋上の防水シートの張替えは来年度に変更して

問 松本町長

佐賀支所の高台移転等の課題は、今後佐賀地域の復興まちづくり計画を策定していく中で、地域の将来のあるべき姿、全体的な全体像を住民の方々と描く中で検討していきたい。

診療所も支所も含めて、その他総合センターも、さまざまな状況を踏まえ、一緒に考えていきたいというのが基本である。私の考え方として、支所をなくするとかいう発想は一切ない。



整備を待つ佐賀支所

燃料高騰

町の対応は 今後更に検討

問 最近の燃料高騰はすべての産業に影響が出る

と考えるが、町はどういう姿勢で対応するか。

答 川村 農業振興課長

農業では燃油価格高騰に対する対策は、国の事業として施設園芸セーフティーネット構築事業があり補てん金を交付するものである。

また、ハウス整備事業の環境制御技術高度化事業の活用で整備することができるところから、補助

避難路対応

危険な大木の 処理は

専門家の助言 を受け判断

問 馬地地区の避難路に覆いかぶさる危険な大木の処理が出来ないか。

答 青木地域住民課長
森林組合などの専門家に現地を確認していただいてどのような方法があるか助言、アドバイスをもらい、実施の可否を判断したい。

問 財政の対応は。

答 松田 副町長

基金で緊急的に使えるのが財政調整基金で20億円ほどあり、交付金や給付金的な対応時には、その基金の取り崩しは当然すべきだと考えている。

【その他の質問】

・老朽化住宅の処理について